

発達障害者におけるテストアコモデーションに関する研究（3）

—試験における困り感と ASD 特性との関連—

○面高有作¹ 立脇洋介¹ 横田晋務¹ 鈴木大輔² 稲田尚子³ 大野愛哉^{4,5} 脇浜幸則⁴ 田中真理¹

¹九州大学 ²東北大学 ³帝京大学 ⁴九州大学大学院 ⁵日本学術振興会特別研究員

KEY WORDS: 自閉スペクトラム症 テストアコモデーション 困り感

【問題と目的】障害学生で、支援ニーズがありながら支援に結びついていない者が一定程度存在すると考えられる（日本学生支援機構, 2020）。特に、客観的に自己評価することが苦手である ASD 者を支援につなげるには、「症状」ではなく「困り感」に注目し、さらに支援ニーズを尋ねることが重要である（高橋ら, 2017）。テストアコモデーションを検討するにあたり、入試及び定期試験場面で体験する困り感から支援ニーズを把握することは意義があると考えられる。そこで、本研究ではテスト困り感と、主観的・客観的 ASD 特性評価との関連を検討することを目的とする。

【方法】対象：連番発表(1)の通り 69 名（定型発達 (TD) 57 名、ASD12 名）を最終的な対象とした。また、ADOS-2 の分析については ASD 者 12 名のみを分析対象とした。分析方法：テスト困り感は「テスト困り感尺度」を、ASD 特性については「ASD 困り感尺度」と「ADOS-2」を分析に使用した。テスト得点の変化は、延長条件得点と通常条件得点の差分を用いた。TD 群と ASD 群それぞれ以下に分析を行なった。①テスト困り感と ASD 特性との相関分析。②テスト困り感とテスト得点の変化との相関分析。倫理的配慮：所属機関の研究倫理委員会における承認、及び対象者への研究参加の同意を得て実施した。

【結果】ASD 群において相関が見られた項目と相関係数を示した (Table 1、Table 2 に一部抜粋)。①こたわりに関する項目が対人的困り感 (25) や ADOS-2 合計得点 (17、32) と相関が見られた。切り替えに関する項目が対人的困り感 (27) や ADOS-2 合計得点 (12) と相関が見られた。また、TD 群では対人的困り感 (12) と相関が見られた。意図理解に関する項目が自閉的困り感 (4) や ADOS-2 合計得点 (20) と相関が見られた。感覚過敏に関する項目が自閉的困り感 (28、33) や対人的困り感 (28、33) と相関が見られた。注意集中に関する項目が自閉的困り感 (30) や対人的困り感 (5) と相関が見られた。安心に関する項目が自閉的困り感 (24) と相関が見られた。また、TD 群では対

人的困り感 (24) と相関が見られた (Table 1)。

②ASD 群のみ、切り替えの項目 (31) でテスト得点の変化と相関が見られた (Table 2)。

Table 2 テスト困り感とテスト得点の変化との相関分析

| No. | 項目 | 分類 | テスト得点 (延長-通常) |
|-----|---------------------------------|------|---------------------------|
| 31 | 日本語の問題文に対して、英語で答える問題は頭の切り替えが難しい | 切り替え | ASD TD .69* -.15 |

* $p < .05$

【考察】こたわりや切り替え、意図理解は ASD 特性の主観的評価及び客観的評価と関連が示された。一方で、感覚過敏や注意集中、安心は主観的評価のみと関連が示された。感覚過敏は ASD の診断基準に含まれる主要な特徴のひとつであることから、先行研究 (Lewis & Nolan, 2013) と同様に、感覚過敏に配慮した試験環境の設定が ASD 者のテストアコモデーションにおいて重要であると考えられる。注意集中は、視覚化した情報提示の配慮につながると考える。また、安心感については、ASD 者の不安の感じ易さが影響していると考えられ (Ishimoto et al., 2019)、安心できる試験時間設定での受験が結果の納得感につながることが推察される。受験当事者が感じる公平さや公正さに注目した研究の重要性が指摘されているが (西郡, 2009)、障害学生のテストアコモデーションにおいても当事者の主観的体験に焦点を当てていくことが大切であると考えられる。

次に、テスト得点の変化との関連から、ASD 群においてはテスト場面における切り替えの困り感が強いほど試験時間延長の効果が強いことが示された。このことより、切り替えの困り感が顕著な ASD 者には試験時間延長が有効な配慮となりうると考えられた。

以上のことより、テスト困り感尺度は主観的・客観的 ASD 特性評価やテスト得点の変化と関連しており、テスト場面における困り感を包括的に捉える一助になると考えられる。

本研究は科学研究費補助金の助成をうけた (JSPS KAKENHI Grant Number 18H01090)。(OMODAKA Yusaku, TATEWAKI Yosuke, YOKOTA Susumu, SUZUKI Daisuke, INADA Naoko, OHNO Aikana, WAKIHAMA Yukinori, TANAKA Mari)

Table 1 テスト困り感と ASD 特性との相関分析

| No. | 項目 | 分類 | ASD 困り感質問紙 | | ADOS-2 合計得点 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------------|--------------|----------------|
| | | | 自閉 | 対人 | |
| 17 | 受験番号や氏名を何度も書き直さずにはいられない | こたわり | ASD TD -.02 -.12 | .33 .11 | .68* |
| 25 | 問題文の読み間違えがないか、何度も読み返してしまい困る | こたわり | ASD TD .36 -.08 | .83** .22 | .57 |
| 32 | 問題文を正しく読めているはずなのに、何度も確認してしまう | こたわり | ASD TD -.17 -.04 | .27 .05 | .58* |
| 12 | 他の問題が気になり、先に進めず困る | 切り替え | ASD TD .08 -.08 | .35 .29* | .66* |
| 27 | 次のテストの時間になっても、前のテストの内容を考え続けてしまう | 切り替え | ASD TD .08 -.12 | .63* .12 | .36 |
| 4 | 解答内容の例示がない場合、どう答えて良いか分からず困る | 意図理解 | ASD TD .60* -.08 | .53 .02 | .37 |
| 20 | 論述問題では、答えは分かっているが、どう表現して良いか分からないことが多い | 意図理解 | ASD TD .06 .07 | .20 .04 | .61* |
| 28 | 試験会場に大勢の人がいると、気になり、なかなか試験に取り組めない | 感覚過敏 | ASD TD .83** .09 | .80** .23 | .03 |
| 33 | 周りの人の些細な動きが気になり、集中できずに困る | 感覚過敏 | ASD TD .81** .09 | .84** .16 | .04 |
| 5 | 口頭だけで説明されると内容が理解できず困る | 注意集中 | ASD TD .34 .15 | .65* .20 | .39 |
| 30 | 口頭だけで説明されると聴き漏らしが多くて困る | 注意集中 | ASD TD .59* -.14 | .43 .08 | -.35 |
| 24 | テスト時間がぎりぎりの場合、プレッシャーで思うように解答できない | 安心 | ASD TD .61* .19 | .52 .29* | -.07 |

* $p < .05$; ** $p < .01$